
食肉科研/行政情報等発信サービス

No.264 2021/4/28

1 安全な農畜水産物の安定供給のためのレギュラトリーサイエンス研究推進計画について

4月26日、農林水産省は「安全な農畜水産物の安定供給のためのレギュラトリーサイエンス研究推進計画の策定について」を各都道府県及び所管国立研究開発法人宛て通知した。同計画は、科学的な根拠に基づく行政施策・措置の決定を推進するため策定・活用しているもので、既存の推進計画が平成27年に策定されてから5年以上が経過したことを踏まえ、新たに策定されたものである。

農林水産省が計画的に進めるレギュラトリーサイエンスに属する研究として、食品安全分野において食肉に関連するものとしては、有害微生物として、カンピロバクター、サルモネラ、腸管出血性大腸菌、リステリアが、有害化学物質としてニトロソアミン類が掲げられている。

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/gijyutu/210426.html>

2 「食品安全総合情報システム」公表

4月16日、食品安全委員会が公表した標記システムに次の記事が掲載されている。

https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/search?keyword=%EF%BC%AC%EF%BC%A4%EF%BC%95%EF%BC%90&query=&logic=and&calendar=japanese&year=&from=struct&from_year=2021&from_month=03&from_day=20&to=struct&to_year=2021&to_month=04&to_day=02&areaId=00&countryId=000&informationSourceId=0000&max=100&sort_order=date.desc

国際がん研究機関(IARC)は3月31日、欧州9か国におけるトランス脂肪酸の食事による摂取と乳がんリスクに関する研究について公表した。

IARCとそのパートナー機関は、工業的に生産されたトランス脂肪酸(industrial trans fatty acids)の食事による摂取が乳がんのリスクの上昇に関連していることを見出した。本研究はトランス脂肪酸の食事による摂取と乳がんの関係を包括的に調査した最も大規模な研究であり、その結果はBMC Medicineに公表された。

EPIC(European Prospective Investigation into Cancer and Nutrition)コホート研究に参加した300,000人以上の女性について、工業的に生産されたトランス脂肪酸と反すう動物由来のトランス脂肪酸(ruminant trans fatty acids)の食事による摂取と乳がんのリスクの関連を調査した。

本結果は、工業的に生産されたトランス脂肪酸、特にエライジン酸の食事による摂取量が多いと、乳がんのリスクが上昇するという仮説を支持するものであった。これ

らの関連の根拠となりうる生物学的経路を特定するためには、更なるメカニズムの研究が必要である。

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/show/syu05580460298>